

発見!

熊野町の「工」ところ。

シリーズ
第6回

全国各地にある名所や名物。もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工」ところを紹介するコーナーです。今回は「新宮地区」からのレポートです。

美味しい水は豊かな自然の証：椿原名水

つばきはら めい すい

「うーん、おいしい!」

岩肌のパイプを通して勢いよく流れ出るその水を、置いてあるコップに汲んで飲んでみると、あまりの冷たさにびっくりしてしまふほどだ。



綺麗な水が流れ出る「椿原名水」。

ここは新宮の「椿原（つばきはら）名水」。東公民館から400mほど阿戸方面に進み、石材屋の看板向こう隣の道を左折し、林道を約1.3km進むと、左手に椿原名水はある。

とめどなく水が流れ出る蛇口をよく見れば道路に面した大きな岩肌の中を貫通しており、とても清潔かつ水を汲みやすい配慮が施してある。この水場はいったいいつからこの状態なのだろうか？麓に下って、この水場を管理してくださっているという住岡峰雄さん(66才)のお宅を訪ねてみた。

聞けば、1980年頃、住岡さん所有の山に林道建設工事が行われた際、こんなと湧き出る山水を発見。早速、水質検査をするとバツグンの名水であることが判明。夏場でも水温は13〜15℃という冷たさ。地域の方のお手伝いもあり、ここに水場を作ったそうである。

住岡さんは少し前まで毎朝5時に来て、チェックも兼ねて水を汲むのが日課だったそう。もちろんその後の水質検査も怠りなく定期的に行い、その水質の良さは、広島県の名水賛歌にも登場しているほどである。

それにしても、勢いよく流れ出てくる水だ。何でもこの流れは一度も途絶えたことがないそうで、おそろしくかなり深い所からの伏流水と考えられている。

「自然のめぐみですから地域の方々に飲んでいただけたらうれしいです。」とおっしゃる住岡さん。以前、心ない人に水場を汚された悲しい事件もあったそうだが、水を汲ませていただく私達は、せめて周囲を汚さないよう、綺麗に使わせてもらう心がけが必要だ。



ちなみに、よく言われる「雲母(きらら)名水」というのは、川の水道を奥へ進み、ちょうど行き止まりになった谷を流れる川の水を指す。水質検査こそしていないが、昔は、この川の水も汲んでいたそう。光に当たるとキラキラ光り、本当の雲母のようで、森林浴が楽しめるような場所だ。



「雲母(きらら)川」の源流付近。

さて、これから秋本番。山歩きや散策も兼ねて、マイナスイオンいっぱいこの辺りを散策してみたい。かがだるうか？疲れたら、「名水のごちそうでちよつとひと休み」もシヤレているのでは…。

豊かな自然がまだ数多く残る熊野町。一方で、いつまでもあたりまえに存在してはくれません。地域に住む我々も一緒にかけがえのない自然を守っていかなければなりませんね。

記者 伊藤真由美